



平成30年 6月18日
旭川地区ミニバスケットボール連盟 技術委員長
中 川 明

第38回旭川地区ミニバスケットボール当麻大会

兼 第39回北海道ミニバスケットボール夏季交歓大会旭川地区予選会 総評

【オフェンス】

春季大会では、「シュートの確実性」が課題として挙げられていましたが、今回の当麻大会ではその点がクリアされ、多少のプレッシャーがある中でもシュートを決められる技術が身につけてきたと感じました。

反面、ボールを持った選手がすぐにドリブルをついてしまい、そこからドライブが始まるといった「ドリブルから始まるオフェンス」が多く、自分に2～3人とディフェンスが集まりノーマークの選手がいるにも関わらず選択ミスやバッドシュートでプレーが終わってしまうケースが多く見受けられました。課題としては、ボールマン以外の選手の動き方、カッティングしてくる選手へのパスの入れ方、そしてドライブに対するあわせの動きなど、2対2、3対3のプレーの精度を上げていくことがチームの総合力向上につながっていくと思われました。

【ディフェンス】

2線目のディフェンスポジションが曖昧なケースが多かったように感じました。そのためパスを簡単に回されたり、自分のボールマンにボールを持たれたときに遅れてマッチアップするため、ドライブに対応できず手を使ったファールを吹かれてしまったりする場面が見られました。そうならないためには、まずは1線目にしっかりとボールマンプレッシャーをかけること、2線目のディナイポジションを正しくとり（オープンディナイ・クローズディナイはチームの考え方によります）、パスコースをふさぐことです。ボールを持たれる瞬間、少しでも不利な体勢にさせてディフェンスをすることが大切だと思います。日々のフットワークを頑張って、よりよいポジショニングで強いチームディフェンスができるよう、頑張ってください。

以上、今大会の総評と致します。今後、各チームの更なる活躍を期待しています。